

令和6年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 日吉 秀松

研究課題名	「胡風事件」と毛沢東の「知識人政策」の形成および反右派闘争との関連性についての研究（1）
研究目的及び 研究概要	研究目的 1955年の「胡風事件」は中国共産党に近い知識人に対する弾圧であり、この事件を通じて、中国社会で反革命を摘発することになった。また、言論自由への弾圧はエスカレートしていた。この事件と1957年の「反右派闘争」の関連性についての研究を通じて、毛沢東の知識人政策の形成の過程を明らかにすることは、本研究の目的である。 研究概要 魯迅の友人で慶応義塾大学出身の文学批評家であった胡風は、毛沢東の1949年以降の文芸政策について、個人的な意見書（三十万言書）を毛沢東に送った。胡氏のこの意見書を批判した毛沢東は、胡を潜んでいる反革命分子と決め付け、彼の友人や文通した人まで、反革命分子として摘発し、迫害を加えた。明、清時代をはるかに超えた文字の獄を作り出した。のちの「反右派闘争」もその類であった。この二つの文字の獄の研究を通じて毛沢東の「知識人政策」の本質を探り出す。
研究実績の概要	研究の進捗状況・得られた成果 現段階では、胡風の意見書を分析し、毛沢東による胡風批判の発言や文章と併せて二者の言い分を比較したうえで、毛沢東の狙いを明らかにし、そして、「胡風事件」は「反右派闘争」との関連性を明らかにしたうえで、毛沢東の「知識人政策」の形成に関する論文を完成したい。 今後の課題・研究業績等 研究を進めるために諸課題を克服する必要がある。今後の課題として、関連する資料を収集したうえで、日本の研究機関のみならず、海外の研究機関との連携や交流も大事であると考えられる。